

# みんなが幸せに暮らす 未来のしきしまのために

～未来に向けた構造改革のための提言～





# 貞観杉のつぶやき

人は私を「貞観杉」と呼ぶ  
1000年以上にわたりしきしまの里と  
人々の営みを見続けている

人は、愚かな争いを繰り返しましたが、  
支え合い、助け合うことで  
多くの困難を乗り越えてきた

今、この国は、新しい時代の入り口にいる  
それは、人口減少と高齢化を受け止める時代

しきしまの里の人々は、地域を開き、  
多様な価値観を持つ若者たちを  
同胞として迎えることに成功した

しかし、それだけで課題は解決しないことにも  
気付いている

人と人がつながり、支え合う社会を  
再び取り戻さなければならないと

縮んでいく社会でも、あるがままで、不安なく、  
幸せに暮らす術を見つけなければならないと

しきしまの里の人々が描く未来

それは、美しい田園風景のある里  
それは、あるがままの自分で居られる里  
それは、不安のない暮らしが続く里  
それは、小さな生業が芽吹き  
それは、子どもたちの瞳が輝いている里  
それは、お年寄りが笑顔で暮らす里  
それは、しきしまを愛するすべての人々による、  
新たな自治が育まれる里

しきしまの里の人々は、描く未来の実現のために  
大きな一歩を踏み出した

「ちょっと助けとくれん」と  
気軽に言い合える支え合いの仕組み、  
いにしへの共同体の互助の力を呼びもどすことだ

「しきしまの家」は、その実現に向けて  
人々が努力する場となり心の拠り所となる

土を耕し森を守る、体を鍛え地域に学ぶ、誰もが  
自分らしくあり、不安のない日常が巡ることを願って

「しきしまの家」から始まる  
未来社会創造へのチャレンジが、  
この国の全土に広がるのを見届けること

それが1000年以上生き永らえた私の使命だ



## INDEX

はじめに ..... p1

### みんなが幸せに暮らす未来のしきしまのために

1 未来のしきしまの姿 ..... p2

2 地域づくりの基本方針 ..... p3

3 構造改革に向けた提言(行動指針) ..... p5

### 資料編

資料1 プロジェクト検討経緯とメンバー構成 ..... p9

資料2 行事・会議等実態調査 ..... p10

資料3 持続的なコミュニティづくりのためのアンケート ..... p11

資料4 あなたの親しい人(よく会う人)と  
健康状態に関する調査(65歳以上対象) ..... p18



# はじめに

.....

新しい時代は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックと共に幕を開けました。

「しきしま・ときめきプラン2020」は、2020年代以降を、人口減少に伴う課題が著しく顕在化する新しい時代と捉え、「過疎に立ち向かう」姿勢から「人口減少・高齢化を受け止めて、持続的で幸福な地域を次世代につなぐ」姿勢に転換し、①支え合い社会創造、②農村景観保全、③縮小社会に適した構造改革、この3つの重点プロジェクトを不退転の決意で推進することを定めています。

私たち、未来への構造改革プロジェクトチームに与えられた使命は、日本中の誰も、どの地域も踏み込んでいない未知の領域、「縮んで行く社会におけるコミュニティのあり方」を提言することです。

住民の皆さんに協力いただいた実態調査やアンケート結果をもとに、専門家を交え3か年度をかけて私たちが導いた結論は、これまで以上に地域を開き、多様な価値観を認め合い、支え合うこと、そして、少人数の高齢社会であっても幸せな人生を全うし、次世代が今よりも幸せに暮らせる地域を残すために、楽しみながら、あらゆる努力を尽くすということでした。

新しい時代の入り口に3年もの間居座ったコロナ禍は、たまたまその時発生したとは思えないほどタイムリーに多くの示唆を私たちに与えたように思います。人も自然の一部でしかなく万能などではないことを。「利己」から「利他」へ優しさや思いやりをコミュニティに取り戻さなければならないことを。国の政策を待つのではなく、地方こそが自治の力を発現しなければならないことを。

みんなが幸せに暮らす未来のしきしまのために、「未来に向けた構造改革のための提言」が、ガイドラインとして少しでも役立てば幸いです。

敷島自治区 未来への構造改革プロジェクトチーム 一同

# みんなが幸せに暮らす 未来のしきしまのために

～ 未来に向けた構造改革のための提言 ～

## 1 未来のしきしまの姿

豊かな自然、温かい地域のきずなを守り  
人々が生き生きと暮らす山里 しきしま

(しきしま・ときめきプランのめざす将来像)

30年後、旭地区全体の人口は半減、高齢化率は50%を超えているが、現在の敷島自治区を含む新しいしきしまは、定住対策が実を結び、自然と共にある暮らしに価値を見いだしたUIターン世帯が全体の2分の1を占め、自治区としての適正な規模に再編されている。

未来のしきしまでは、多様な価値観や働き方を認め合い、しきしまと相互利益でつながる都市住民(関係人口)と共に住民同士が支え合う自立した地域自治が、法人化された「しきしまの家」を軸に営まれている。そして、さらに進展する情報や科学技術を駆使しながら、お年寄りから子どもまでが、それぞれの能力に応じた役割を果たしつつ、感染症や自然災害の危機をしなやかにかわしながら、豊かな自然を享受し、生き生きと幸せな日常を送っている。



## 2

# 地域づくりの基本方針

気候変動を始め地球環境、社会や経済の将来予測が困難な時代を迎え、未来は、予測するものから創造するものへと変化した。未来を創造するということは、30年後にありたい地域の姿に向かって、今できる改革を確実にいき、地域の未来を担う次世代から多様な選択肢を奪わないことである。「未来に向けた構造改革のための提言(行動指針)」の前提となる地域づくりの基本方針を次のとおり確認する。

### 1

多様な価値観を認め合う開かれた地域として、空き家や空き地を活用した定住対策に努め、少子高齢化の社会にあっても、世代バランスの取れた、持続的かつ次世代に続く幸せな地域づくりに取り組む。

「高齢化社会」は、課題なのではなく私たちが目指してきた社会です。「人生100年時代」は、幸せな人生が長く続くこと、そして、次世代が今よりもっと幸せに暮らせる地域を残すために努力をする時間が与えられたと考えましょう。

## しきしまのこれからの人生モデル

これまでの人生

### 3ステージモデル

同世代で一斉行進。引退期は「老後」を送る人生。



これからの人生

### 生涯現役・幸福持続化モデル

生涯学び、多様な仕事に就き、次世代のために生きる人生。



### 2

しきしまの暮らしに誇りを持ち、IUターン者を受け入れ、多様な「関係人口」とつながる基盤となる「美しい田園風景と山並み」を守るために必要な取組みに努める。

個人の農地、森林であっても、それらが織りなす農村景観は、未来に引き継ぐべき地域の共有財産です。過疎の進行は、私たちの心「誇りの空洞化」から生まれ、それは荒廃した風景を目にすることからも生まれます。景観を守ることは私たちの砦を守ることと考えましょう。





3

「町内会」は、歴史的背景や宗教、受け継がれた民俗、地理など地縁でつながる共同体の基礎単位であり、統廃合などは、構成する主体の意思を優先し尊重する。

神社の創建が集落の形成期にあたります。およそ1000年の歴史を持つ町内会の去就は、合理性で判断したり、外部から干渉したりできない重みを持ちます。主体となる人々の判断に寄り添い、求められたとき、最大限の応援をする。それが、しきしまの「集落のたたみ方」です。

4

「自治区」は、町内会を始め多様な共同体の集合体として、情報を共有し、支え合い、活動が持続する適正な規模に保ちながら、行政との共働を通じて地域づくりを担う。

豊田市との合併前の自治区と町内会(組)の範囲は一致していました。合併に際し再編された現在の自治区は、行政と共働して地域課題を解決するのに適した範囲が意図されたものと考えられます。今後の人口減少を踏まえ、効果の高い範囲に再編していくことが求められます。

5

「自治区」は、町内会、農事組合など地縁的活動団体のみならず、様々なテーマで活動するグループや、山村をフィールドに地域住民とつながり社会貢献に取り組む企業など、テーマ型活動団体が効果的につながる仕組みづくりに努める。

これまでの地域組織は、地縁的活動団体と趣味のグループなどで構成されていました。時代の変化とともに、社会課題に向き合うテーマ型活動団体や企業の社会貢献活動など、多様な目的の団体が地域をフィールドに活動するようになりました。それらを効果的に地域づくりに生かす仕組みが必要です。



6

人口減少・高齢化が進む地域における課題解決は、もはや住民(住所を持ち、地方自治法に定める権利、義務を有する者)の努力の限界を超えていることから、親密別居者、地域出身者、地域に特別の思いを寄せる都市住民などの「関係人口」を、地域自治の担い手として受け入れるように努める。



「これまで住民できていたことが、住民だけではできなくなった。」日本中の山村から聞かれる声です。これからのしきしまの「地域自治」は、山村の課題解決に喜びや意義を見出す「関係人口」と共に行う「関係自治」を基本方針の柱の一つに据えて進めます。



## 都市とつながる今後の山村自治のイメージ

これまで

### 地域自治=住民自治

地域住民が主体性を持って自立し、  
地域課題を解決



※ 関係人口：都市に居住しながら山村地域の課題解決に積極的に関わる人

これから

### 地域自治=関係自治

地域住民と関係人口※が共に自治の  
主体となって地域課題を解決

## 3

## 構造改革に向けた提言（行動指針）

### 1

### 行催事・会議のあり方

- 行催事・会議の統合やスリム化、廃止について常に検証し、民主的な手続きを持って改善に取り組む。一方、社会変化に伴う新たな課題への対応が必要な場合は、積極的に行催事、会議を立ち上げる。
- 対面での行催事・会議を尊重しつつ、オンライン会議の環境整備をはじめ、情報・科学技術の活用に努める。

### 2

### 役職のあり方

- 住民一人一人が共同体の構成員として、楽しく主体的に参画できる役職のあり方を目指す。
- 行政の都合で割り当てられる役職など、必要に応じ行政に改善を求める。
- 「関係人口」が役員を担うことも視野に入れる。

### 3

### 拠点の整備拡充

- 誰もが気楽に立ち寄れ、お茶を飲み、相談もできる「みんなのたまり場」を整備し、活動の拠点、プラットフォームとすると共に活動の象徴、拠り所とする。
- 自治区の事務所として位置づけ、これまで人の集まりであった自治区を目に見える場所、活動の現場とすることで、地域住民の自治意識の向上を図る。



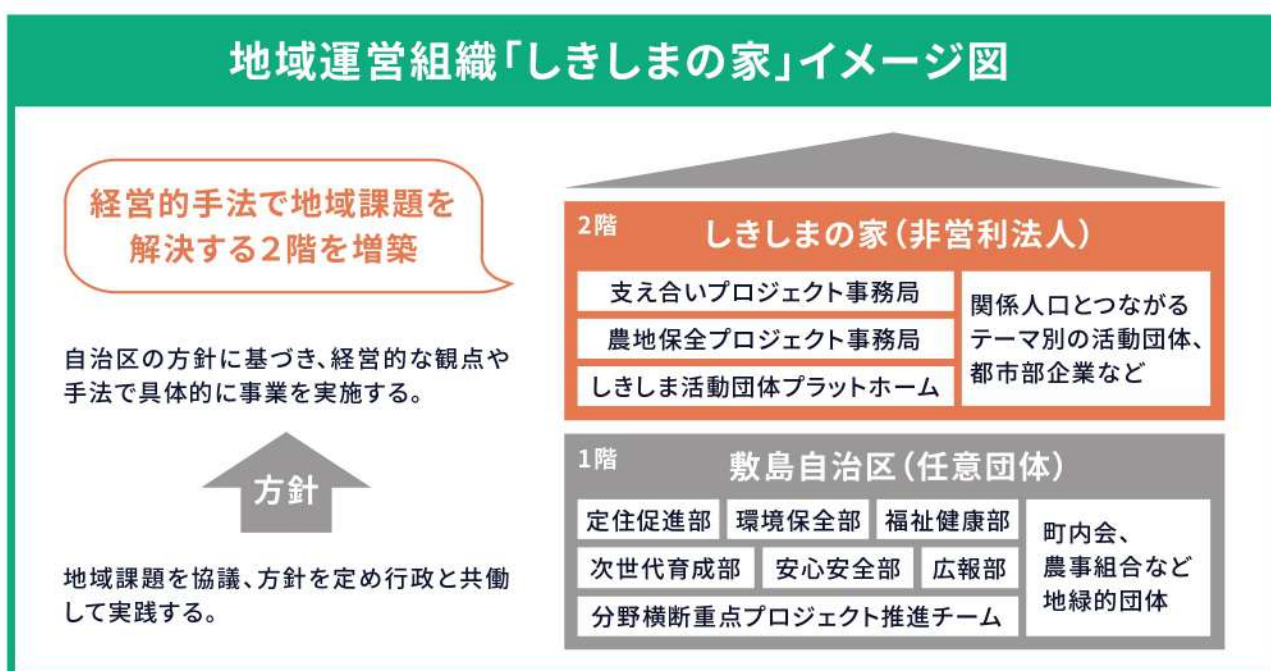


## 4

## コミュニティ単位等のあり方

- 共同体の基礎単位である町内会の存続に努め、存否は住民及び関係人口の総意で決める。
- 共助の共同体単位である自治区は、効果的な規模(1,000人程度)の維持に努め、必要に応じて統合を検討する。
- 自治区は、協議組織に加え、実働部隊としての地域運営組織を設け、支え合いシステムや農地保全を経営的手法で推進するほか、テーマ型活動団体のプラットフォームとして連携の輪を広げるよう努める。
- 地域運営組織(しきしまの家)は、責任と信用、雇用の安定、組織の持続性を確保するため、早期の法人化を目指すとともに、財源の確保に努め、安定的な経営を目指す。

### 地域運営組織「しきしまの家」イメージ図



- 農事組合、中山間地域直接支払制度協定団体、森づくり会議、高齢者クラブ、子ども会など地縁的かつテーマ型活動団体については、目的達成のために効果的な規模への再編を検討する。
- 集落単位での取組みが困難になりつつある農地保全について、農村型地域運営組織(農村RMO)など早期に広域連携組織の具体化を図る。
- 流動的な関係人口を、自治の担い手とするため、「サポート区民」制度や公開討論の場などの仕組みの具体化に努める。

## 5

## デジタル技術の活用

- 「関係自治」の主体は、都市に暮らす人が多く、インターネット、SNSなどを活用した伝達手段が必須であるほか、「サポート区民」としての自覚やメリットの供与を具体化するため、早期のアプリ開発などに取組む。



## 6

## 多様な価値観を認め合う地域づくり

- 多様な価値観を認めつつ、同じ地域で皆が自分らしく幸せに暮らすために、価値観の相違から生じる課題から目を背けず、対話につながる機会づくりに努める。



## 7

## 感染症など様々な危機への対応

- 日常においても、行催事、会議においても「新しい生活様式」を念頭に行動する。
- 発生時においても、必要な行催事、会議は、工夫を凝らして実施に努める。
- リアルな人間関係が健康維持にも有効であることから、日常の関係づくりに努める。
- 感染者はもとより地域においては、一切の差別を認めず支え合う。
- 新たな感染症の発生や自然災害の危機に対して、自治区の対応方針を明確にして、住民への周知を徹底することで、安全を確保し混乱を回避するよう努める。
- 自主防災会、自主防犯会の機能の実質化を早期に実現するとともに、自然災害時の避難行動等、有事を想定した訓練や要支援者に関する情報の収集、活用に努める。



## 8

## 未来につなぐ守るべきもの

- 人口減少・高齢化社会を受け止め、コミュニティの統廃合「村おさめ」が必要な場合は、関係者の総意を持って禍根のない再編に努める。



- 自然資源(希少種や景観)は、専門家の意見を踏まえ、関係人口と共に保全する。
- 歴史資源(遺跡、宗教施設や古文書、写真)は、地域の想い、専門家の意見も踏まえ、関係人口と共に保全する。古文書・写真などは、スピード感を持ってデジタル化に取り組む。
- 民俗資源(棒の手やお囃子、伝統食、手業)は、それぞれの保存会などと協力して保存に努めるほか、伝統食や手業などは、レシピ、記録映像、聞き書きなど工夫を凝らして保存に努める。



# 資料編

～ 未来に向けた構造改革のための提言 ～

## INDEX

資料1	プロジェクト検討経緯とメンバー構成 .....	p9
資料2	行事・会議等実態調査 .....	p10
資料3	持続的なコミュニティづくりのためのアンケート .....	p11
資料4	あなたの親しい人(よく会う人)と 健康状態に関する調査(65歳以上対象) .....	p18

※資料3および資料4の調査は、日本学術振興会科学研究費助成事業  
(課題番号:19K13934、代表:野原康弘)の助成を受けたものです。

# 1 プロジェクト検討経緯とメンバー構成

## 「未来への構造改革プロジェクト」検討経緯

### ● 2021 (R3) 年度

7月3日 第1回会議

8月22日 第2回会議

10月24日 第3回会議

12月5日 第4回会議

1月9日 第5回会議

1月15日～2月28日

「行事・会議実態調査」実施

### ● 2022 (R4) 年度

4月17日 第6回会議

5月29日 第7回会議

7月3日 第8回会議

8月7日 第9回会議

8月13日～9月17日

「持続的なコミュニティづくりのためのアンケート」および

「あなたの親しい人と健康状態に関する調査」実施

12月3日 第10回会議

1月29日 第11回会議

3月26日 第12回会議

### ● 2023 (R5) 年度

5月28日 第13回会議

7月23日 第14回会議

8月27日 第15回会議

9月16日 自治区総務会

「提言書」提出

## 「未来への構造改革プロジェクト」メンバー

プロジェクトリーダー 沓名雄司:第一庶務 R3 R4 三浦計洋:副区長 R5

サブリーダー 鈴木辰吉:プラン策定委員 R3 R4 R5

### メンバー

後藤哲義 :区長 R3 R4 ・顧問 R5

近藤正臣 :顧問 R3

鈴木正晴 :顧問 R4

後藤善弘 :副区長 R3 R4

沓名雄司 :区長 R5

安藤恒仁 :第一庶務 R5

林 如実 :第二庶務 R3 R4 ・会計 R5

清水幸子 :第二庶務 R5

板倉小夜子:会計 R3 R4

築井喜仁 :町内会長代表(明賀) R3

小池 守 :町内会長代表(大坪町) R3

松井文信 :町内会長代表(押井町) R4

高山治朗 :町内会長代表(太田町) R4

築井友美 :町内会長代表(明賀町) R5

松井勝彦 :町内会長代表(加塩町) R5

浅野陽介 :地域会議委員 R3

林 義治 :地域会議委員 R4 R5

加藤栄司 : (一社)地域問題研究所 R3 R4 R5

野原康弘 :宇都宮大学 R3 R4 R5

佐藤則子 :名古屋大学博士後期課程 R4 R5



## 2 行事・会議等実態調査

人口減少・高齢化が進む中で、各町内会では組織や行事、会議等をどのように維持しているかを把握するため、実態調査を行った。

### 調査方法

対象 : 敷島自治区の9町内会

配布・回収 : 2022 (R4) 年1月15日 (土) ~ 2月28日 (月)

総務会にて町内会長に調査票を配布し、各団体の調査を依頼。

回収率 : 9町内会中9町内会 (100%) 有効回答率 : 9町内会中9町内会 (100%)

### 調査結果 (抜粋)

#### 町内会

町内会(世帯)	会費	役員数(人)	会議数(回)	時間(h)	行事数(回)	工夫等
東萩平(26)	○	6	12	1.0	4	住友ゴムなど企業と連携
大坪(48)	○	13	14	2.0	5	環境美化に合わせ他行事実施
杉本(77)	○	12	16	1.0	4	環境美化に合わせ他行事実施他
小田(9)		2	12	1.0	4	防災訓練に合わせ他行事実施
明賀(13)	○	7	随	1.0	5	
太田(37)	○	10	6	2.0	3	
押井(27)	※1	11	12	1.0	8	※1 県道受託料を充当、行事合理化
榊野・万根(62)	○	8	12	0.5	2	会議時間短縮、会費年2回徴収
加塩(27)	○	11	12	1.5	10	町内会、神社行事の同日開催他

※随：随時 ※会費：○=有り、空欄=なし

#### 神社氏子

町内会	組織	会費	役員数(人)	会議数(回)	時間(h)	行事数(回)	工夫等
東萩平	神社氏子		6	随	1.0	4	コロナによる簡素化
大坪	神社氏子		7	7	1.0	7	
杉本	神社氏子	○	8	13	2.0	7	複数行事を同一日に実施
小田	神社氏子						町内会と一体、神社・行事の統合
明賀	神社氏子	○	4	随	1.0	4	
太田	神社氏子		4	7	0.5	7	
押井	神社氏子	○	4	9	1.0	7	複数の祭礼を合同開催
榊野・万根	野見神社氏子	○	4	10	0.5	10	コロナによる簡素化
	白鳥社氏子	○	2	7	0.5	7	コロナによる簡素化
	秋葉神社氏子(月畑)	○	3	1	0.5	1	お庭草、祭事を同一日
加塩	神社氏子	○	6	4	1.5	7	庚申祭の合理化

#### 農事組合・営農組合

町内会	組織	会費	役員数(人)	会議数(回)	時間(h)	行事数(回)	工夫等
東萩平	農事組合(集落営農)		5	2	2.0	3	
大坪	農事組合		7			3	
杉本	農事組合	○	8				
小田	—						
明賀	農事組合		2	随	1.0		
太田	営農組合(集落営農)		10	3	2.5	5	町内会会議合同、役員の一部兼務
押井	営農組合(法人)		7	3	1.5	1	自給家族70世帯で農地保全
榊野・万根	農事組合		4			4	
加塩	農事組合	○	6	4	1.0	4	

### 総括

各町内会・その他団体とも様々な工夫で合理化に努めている。コロナ禍の影響もあり会議時間が短くなっている一方で、行事や会議の縮小が地域の連帯感や活力を削いでしまう懸念もある。

### 今後の地域運営の課題

- 役員数が世帯数を上回る集落がある。役職兼務が常態化しており、組織の統廃合が求められる。
- 多くの組織が国等の制度により義務付けられた必須組織であり、国等に改善を求める必要がある。
- 集落の小規模化に伴い、農地・森林保全等に手が回らなくなる傾向があり、特に対策が必要である。
- 町内会対象の調査では、地縁的団体以外のテーマ型活動団体を把握できないため、追加調査が必要である。
- テーマ型活動団体や都市部企業を地域づくりに生かす仕組みが必要である。

※このほか、中山間直払い協定・森づくり会議ほか・各種愛好会・観音様係についても回答を得ている。



### 3 持続的なコミュニティづくりのためのアンケート

2019 (R1) 年実施の「私と家族の将来像アンケート」では、地域組織の負担感が限界にきている結果が示された。また2020 (R2) 年に始まるコロナ禍によって地域活動が大きく制約され、今後のコミュニティや人同士の関わり方が問われた。このような状況をふまえ、将来のコミュニティのあり方を考える基礎資料とするため、アンケートを実施した。

※この調査は、数島自治区「未来への構造改革プロジェクト」、(一社)地域問題研究所、宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンターの共同研究として行った。

※ページ数の関係上、図表データは男女別および総数のみを掲載した(年代別データは省いた)。

#### 調査方法

対象 : 数島自治区全世帯 (325世帯)

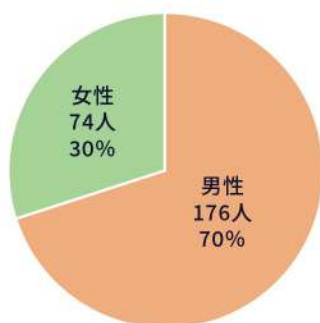
回答者の指定 : 世帯代表(世帯主に限らず「次代を担う若い世代の方に回答いただきたい」と記載)

配布・回収 : 2022 (R4) 年8月13日(日)～9月17日(水)

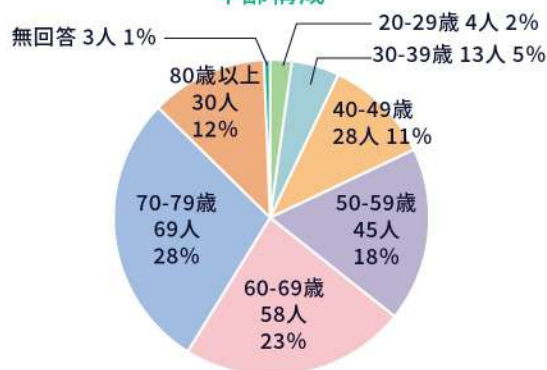
2022 (R4) 年8月13日に町内会経由で全世帯に配布し、9月17日までに町内会長に提出。  
その後、町内会長から回収。

回収率 : 325世帯中250世帯(約77%)      有効回答率 : 250世帯中250世帯(100%)

男女比



年齢構成



#### 調査結果

##### 概要

##### A 行催事・会議、役職のあり方

- 役職の負担軽減が求められている。
- 関係人口の受け入れには寛容な姿勢を持つ。

##### B これからの自治区・町内会のあり方

- 町内会の存続は求められているが、再編も意識されている。

##### C コロナ禍における意識や行動

- 差別・偏見には、自治区としての対応や方針の明示が必要。
- コロナ感染症に関する情報源は、テレビや新聞が多い。
- 何かあったときの相談相手は、家族・親族・友人・知人が多い。

##### D 災害の危険性がある時の避難行動など

- ハザードマップの確認率は高いが、避難指示や高齢者等避難の発令で実際に避難すると思われる人は50%程度と少ない。

##### E インターネットやSNSの利用

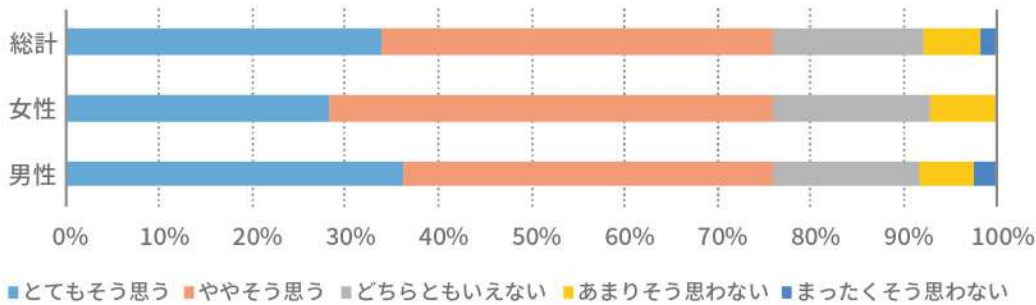
- インターネットやSNS等の利用は、年齢によって差がある。



## A 行催事・会議、役職のあり方

1-1

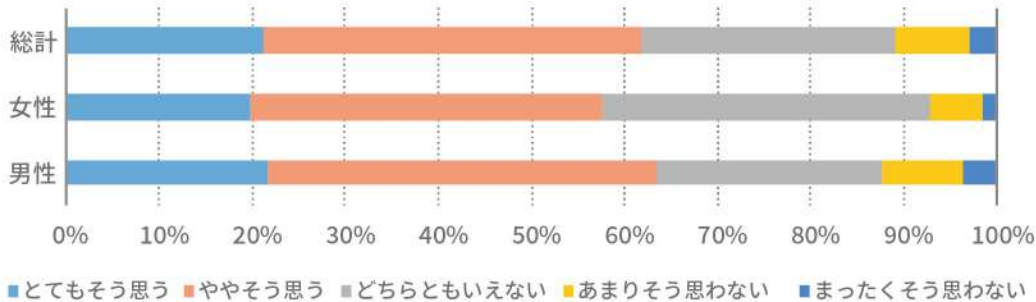
行催事・会議は、人口規模などに応じスリム化、統廃合の方向での改善が必要だが、地域の存続に関わる重要な行催事・会議は、続けていくための方策を検討することも大切である。



行催事・会議のスリム化や統廃合を75%以上が求めており、負担軽減が課題である。

1-2

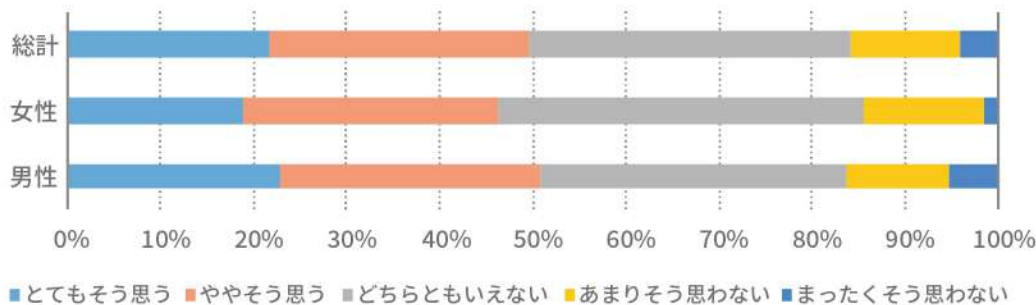
人口減少・高齢化が進む中で、スリム化、統廃合する行催事・会議がある一方で、新たな社会課題や支え合いのための行催事、会議を立ち上げることも必要となる。



必要に応じて新たな行催事を立ち上げることに、60%近くが賛成。

1-3

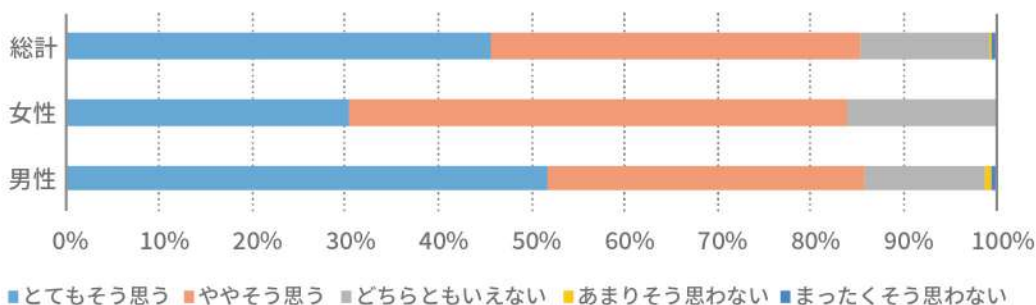
対面会議の意義を尊重しつつ、情報化社会の進展に合わせ、必要なインターネット環境を整備し、会議、寄合いのオンライン化(テレビ会議)を推進することが必要である。



約50%は賛成であるが、否定的な考えの人も多い。オンライン化を進めつつ、当面は対面での会議が基本と考えられる。

1-4

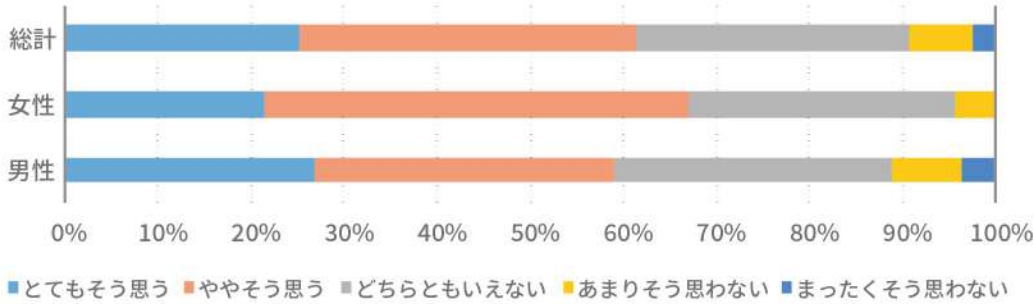
地域運営に必要な自治区や町内会等の役職については、主体的参加、民主的な選任に努める一方、行政の都合で割り当てられる役職などについては、改善、話し合いに努め、負担の軽減を図る。



男女とも80%以上が賛成しており、行催事・会議以上に役職にかかる負担軽減への要望が高い。

1-5

人口減少・高齢化が進む中で、地域住民ではないが地域に深く関わる人(関係人口)にも積極的に自治区や町内会等の活動に加わってもらう必要がある。

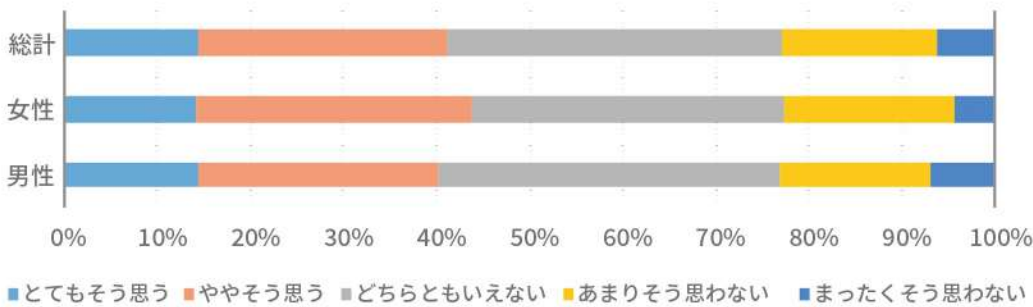


賛成が約60%と高く、関係人口の受け入れについては寛容である。

## B これからの自治区・町内会のあり方

2-1

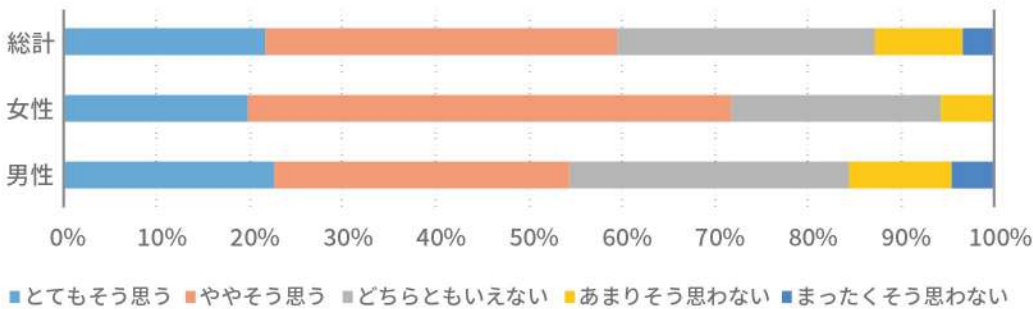
町内会は、歴史的背景や神社なども関わる地域共同体の基礎単位であり、世帯数などを基準に安易に統廃合を進めるべきではない。



「どちらともいえない」が多いが、反対(20%強)よりも賛成(約40%)が多い。

2-2

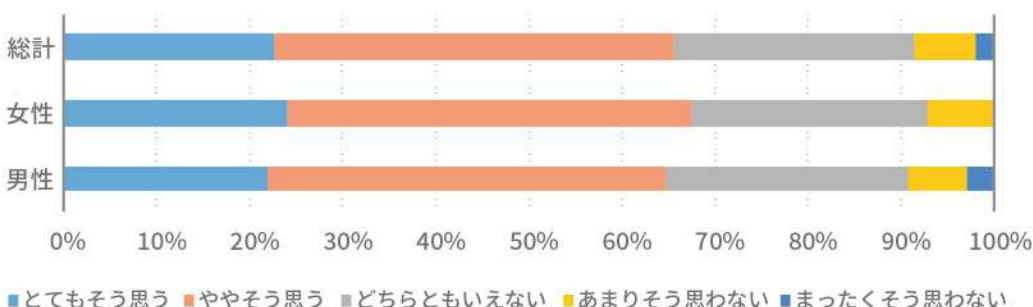
町内会の統廃合は、関係住民はもとより、不在地主はじめ関係者の総意を集め、自治区のサポート体制の下で進められるべきである。



賛成が約60%と多く、町内会の統廃合は慎重に進められなければならない。

2-3

人口減少・高齢化が進む中で、町内会が担ってきた役割を、町内会の集合体でもある自治区が担うなど、自治区の役割はこれまで以上に大きくなる。

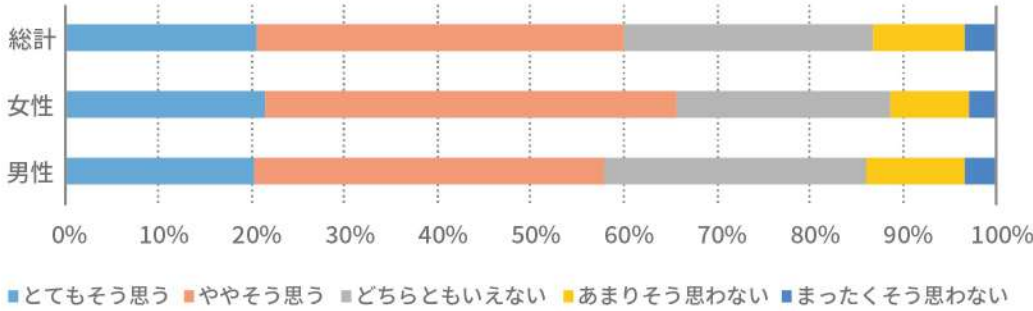


賛成が60%以上と多く、町内会で対応が困難な課題を自治区に求める傾向がみられる。



2-4

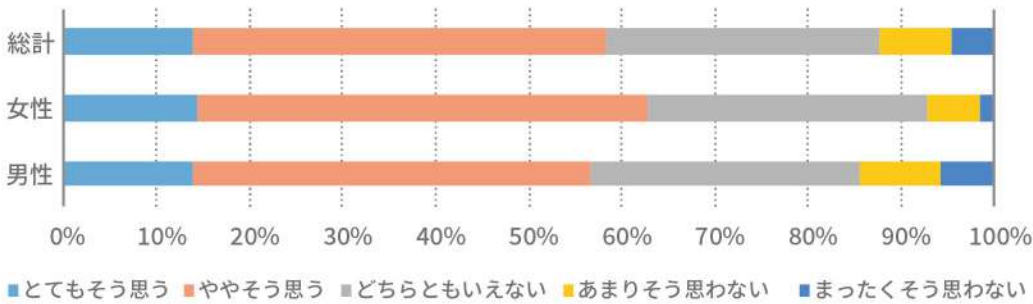
「支え合いシステム」はじめ、自治区を単位とした課題解決のため、自治区の方針に沿って、経営的な視点や手法で事業を進める「実働部隊」、「地域運営組織」が必要である。



賛成が約60%と多い。女性の賛成比率が高く、今後組織される地域運営組織での活躍が期待される。

2-5

町内会の集合体である自治区は、支え合いなどの効果が高い一定の規模を維持する必要があり、小学校区単位などでの再編に向けた協議を検討すべき時期に来ている。

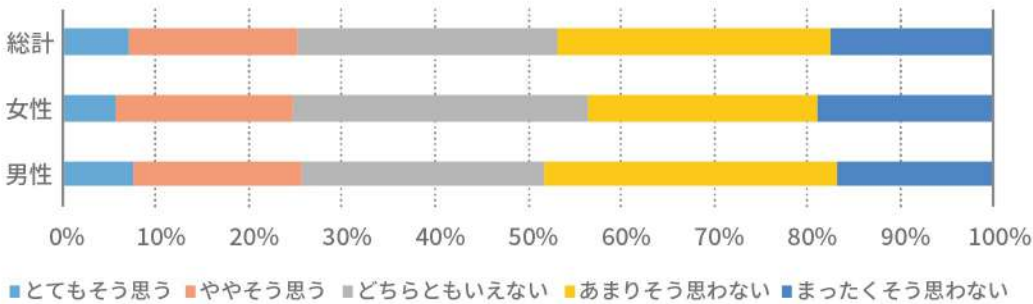


賛成が約60%と多く、再編に向けた協議を検討すべき時期にきている。

## C コロナ禍における意識や行動

3-1

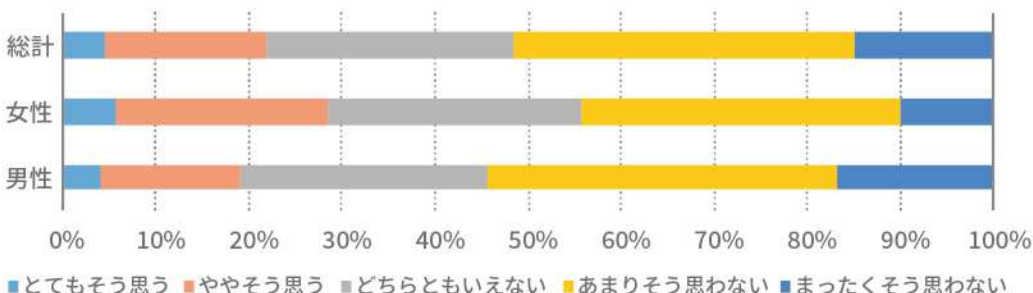
敷島自治区内で、新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見がある・あった。



差別や偏見があったと考える人は25%と少数である。「差別・偏見」の捉え方にもよるため、注意が必要。

3-2

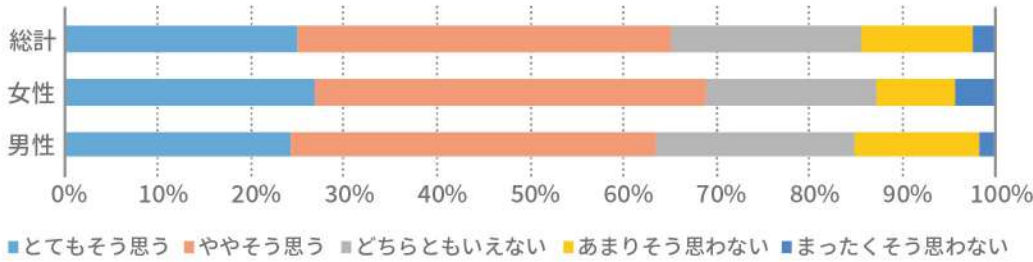
自分や家族が新型コロナウイルス感染症のような新興感染症に感染したら秘密にしたい。



秘密にしたいとする比率は、25%と少ない。発生から2年を経過しており、意識の変化も考えられる。

3-3

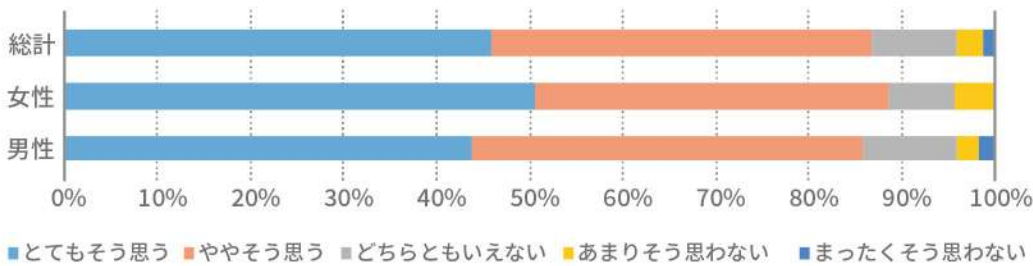
新型コロナウイルス感染症が発生して以来、休止していた地域活動や行催事は、感染状況を見極めながら、今後徐々に再開していく必要がある。



賛成が60%以上と多い。過度の活動自粛が常態化しないよう、必要な行催事の復活に努めなければならない。

3-4

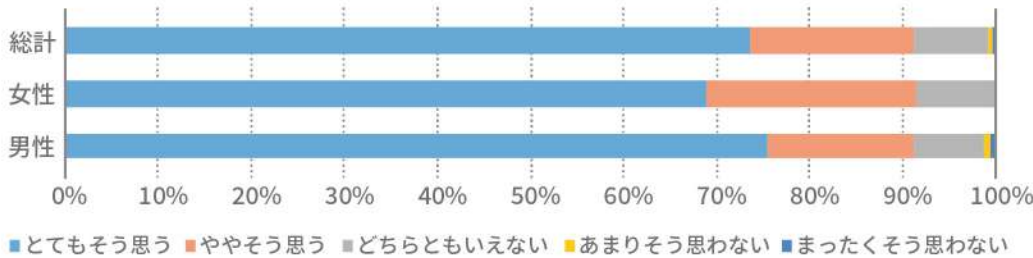
新型コロナウイルス感染症のような新興感染症のパンデミック(世界的大流行)は、今後またたびたび発生することを前提に、日常的な備えが必要である。



85%以上が賛成と回答。新興感染症は今後も発生すると考える人が多い。

3-5

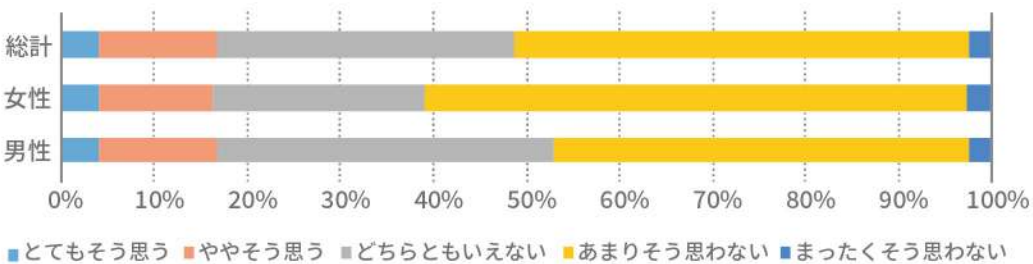
新型コロナウイルス感染症のような新興感染症は、誰でも感染する可能性があり、差別や偏見を持つべきではない。



90%以上が賛成と回答。誰でも感染、差別や偏見を持つべきではないと考える人が多い。

3-6

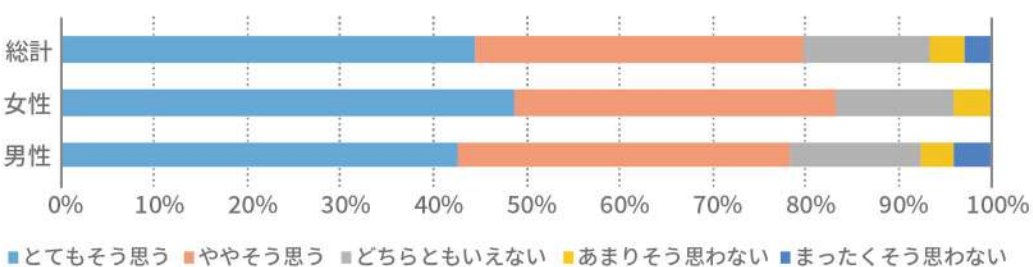
新型コロナウイルス感染症のような新興感染症の感染者への差別や偏見は、正しい情報や知識の普及により減らすことができる。



賛成が20%以下と極めて少ない。問3-5との関係から、「差別や偏見を持つべきではないが、「それを減らすことは難しい」と考えている。

3-7

今後、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症が流行した場合、入手可能な正しい情報と共に、自治区としての対応方針などを示すことは、混乱や差別を生まないためにも有効である。

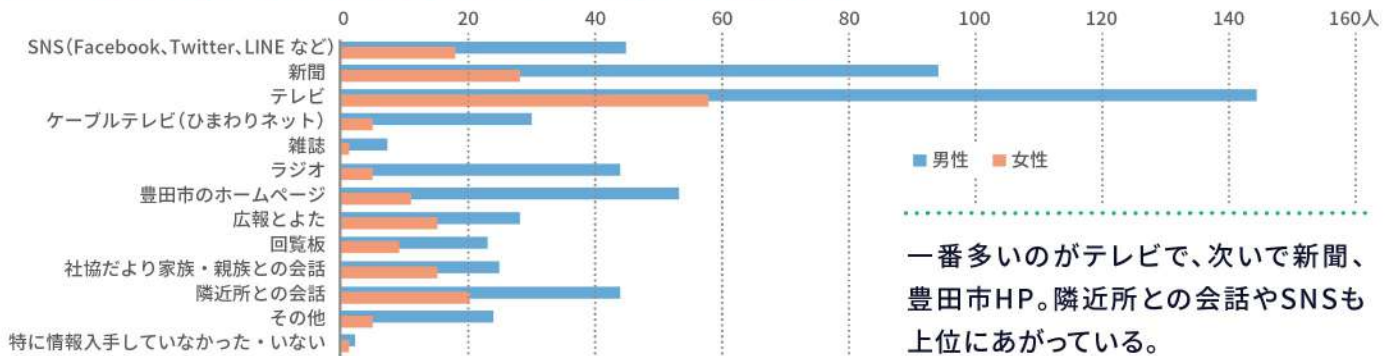


賛成が80%と多い。数島自治区ではコロナ禍初期に感染者への差別が大きく広がり、自治区の方針を示し注意を促した。この取組みは今後も必要と思われる。



4

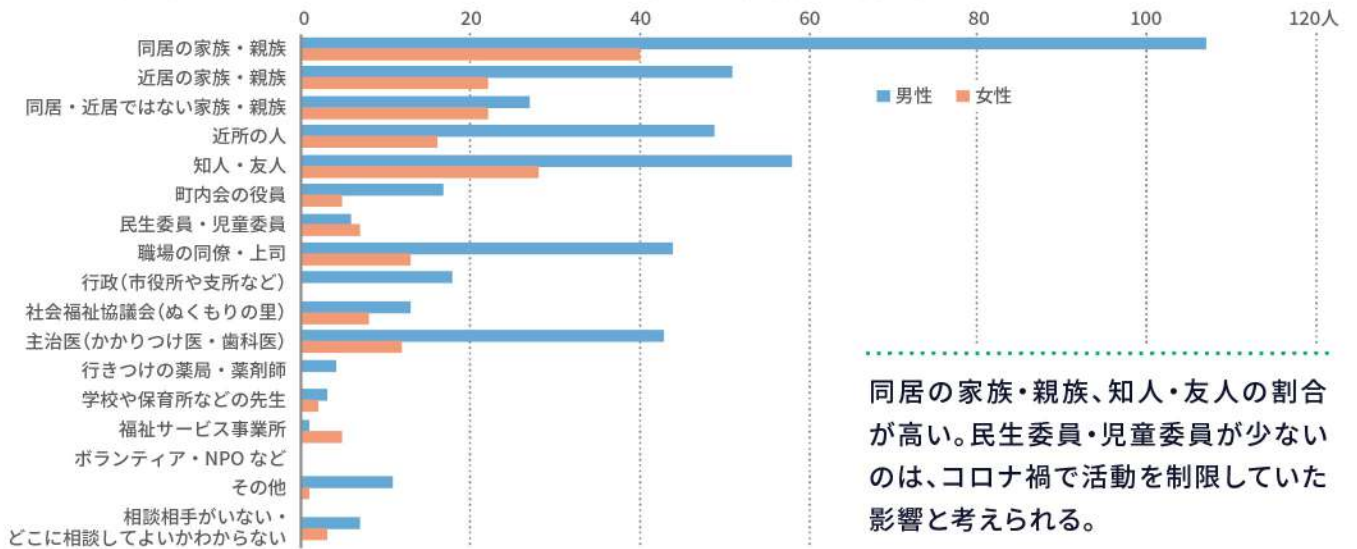
あなたは、「新型コロナウイルス感染症に関する情報」は主にどのような方法で入手していましたか・入手していますか。(選択式/複数回答可)



一番多いのがテレビで、次いで新聞、豊田市HP。隣近所との会話やSNSも上位にあがっている。

5

コロナ禍で日常的な暮らしの中で困ったり不安を感じたりした時に、主に誰に相談していましたか・相談していますか。(選択式/複数回答可)

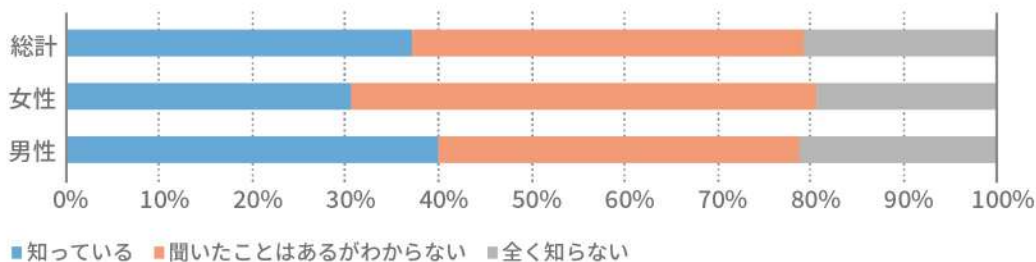


同居の家族・親族、知人・友人の割合が高い。民生委員・児童委員が少ないのは、コロナ禍で活動を制限していた影響と考えられる。

## D 災害の危険性がある時の避難行動など

6-1

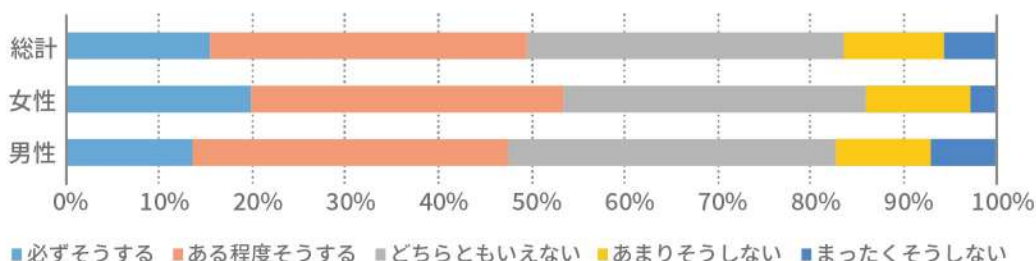
災害対策基本法が改正され、令和3年5月20日から豊田市が『避難指示』を発令した際には、住民は必ず避難所へ避難しなくてはならなくなりました。あなたはご存じですか。



「知っている」は40%以下。「聞いたことはあるがわからない」「全く知らない」が60%以上であることは今後の課題といえる。

6-2

災害のおそれが高くなり、『避難指示』が発令された時、あなたは速やかに避難しますか。

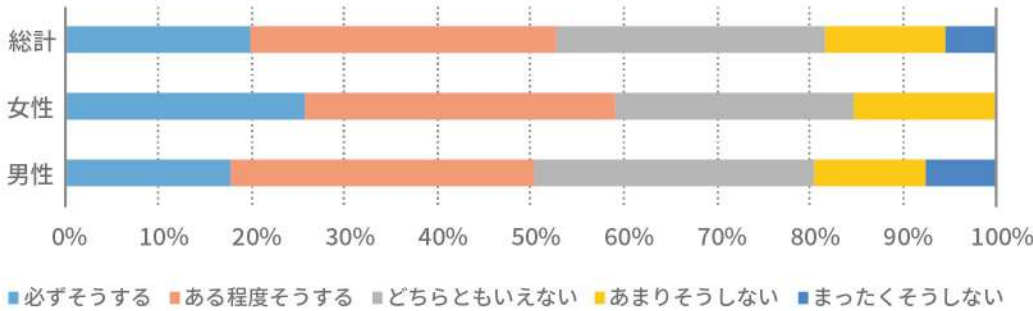


半数近くが避難すると答えているが、「どちらともいえない」も多い。しかし現状の避難所では区民全員を収容し切れないため、政策的な問題もある。

6-3

災害のおそれがあり、『高齢者等避難』が発令された時、あなたは速やかに避難しますか。

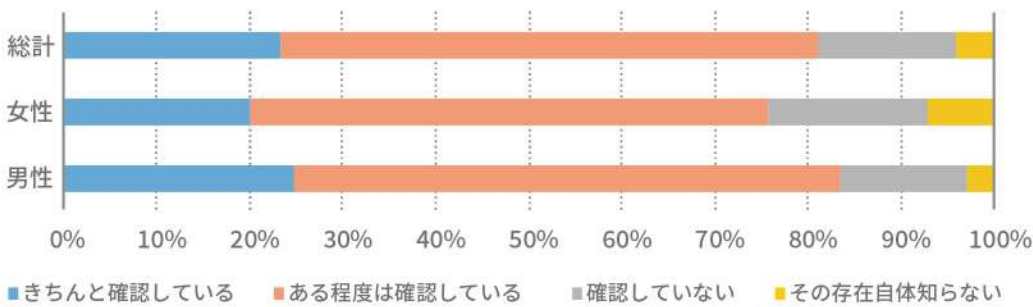
※60歳以上を抜粋。



60歳以上の高齢者で「あまりそうしない」「まったくそうしない」と答えた人が20%弱いる。今後の大きな課題である。

6-4

あなたの家がどのような災害の危険があるのか豊田市ハザードマップ(土砂災害や洪水)で確認していますか。



若者も高齢者も80%前後が確認しており、ハザードマップの認知度は高いといえる。

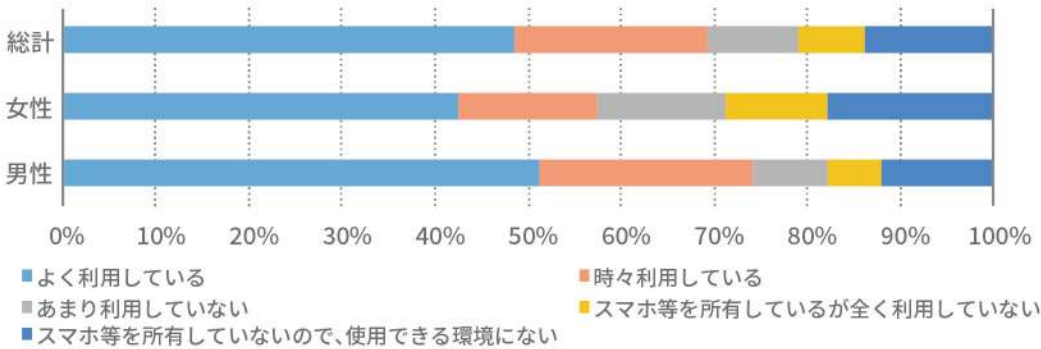
※7・8は居住地・年齢・性別に関する質問。

## E インターネットやSNSの利用

9

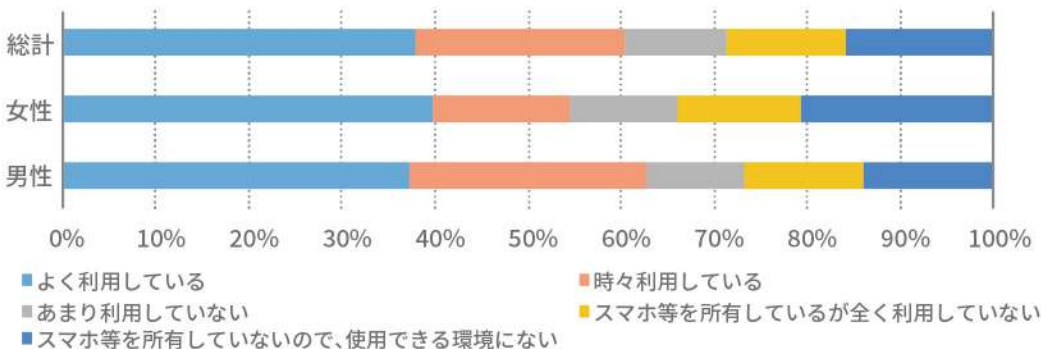
あなたは、パソコンやスマホによるメール・インターネットやSNS(Facebook、Twitter、LINEなど)を利用していますか。

### パソコンやスマホによるメールやインターネット



50%近くが利用しているが、年齢によって差がある。

### SNS(Facebook、Twitter、LINEなど)



上の質問と同様の傾向がある。高齢者のみの世帯でインターネットやSNSの活用は難しいと思われる。



## 4 あなたの親しい人(よく会う人)と健康状態に関する調査

将来を見据え、持続可能なコミュニティ形成と健康づくりを考えるための基礎資料とするため、コミュニティの状況と健康状態を調査するアンケートを実施した。

※この調査は、敷島自治区「未来への構造改革プロジェクト」と(一社)地域問題研究所、宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンターとの共同研究として実施した。結果は、豊田市社会福祉協議会旭支所(ぬくもりの里)と協力して地域福祉活動につながる基礎資料としても活用する。

※ページ数の関係上、図表データは一部のみ掲載する。

### 調査方法

**対象** : 敷島自治区全世帯(325世帯)

**回答者の指定** : 敷島自治区(10町内会)に住む65歳以上(2022年7月1日現在)の高齢者。

※施設入所および回答困難な人を除く。

**配布・回収** : 2022(R4)年8月13日(日)～9月17日(水)

2022(R4)年8月13日に町内会経由で全世帯に配布し、9月17日までに町内会長に提出。

その後、町内会長から回収。

**回収数** : 307名 **有効回答率** : 307名中270名(88%)

※住基台帳人口(65歳以上人口)を基準にした場合、回収率は75.2%、有効票率は66.2%。



※性別の「無回答」は性的マイノリティに配慮した選択肢。回答がない場合は「空欄」とした。

### 調査結果 ※有効票270名に関する分析。

#### 1 同居者

##### 世帯数と世帯人員

地区	世帯数(戸)	世帯人員									
		1名 独居	2名	うち 高齢世帯	3名	うち 高齢世帯	4名	5名	6名	7名	不明
明賀	11	1	4	1	1	-	2	1	-	-	2
太田	27	5	9	3	4	-	3	-	2	-	4
大坪	30	8	16	4	2	-	3	-	-	1	-
押井	20	7	4	-	6	1	1	-	2	-	-
加塩	23	8	4	3	6	-	4	-	1	-	-
小田	5	1	2	1	1	-	1	-	-	-	-
榊野	26	6	9	1	3	-	3	3	2	-	-
万根	6	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-
杉本	38	13	13	2	6	1	5	-	-	1	-
東萩平	21	5	5	1	9	2	-	1	1	-	-
全体	207	57	69	18	38	4	22	5	8	2	6

● 回答者の男女比率は半々で、70代の回答が最多(110名)だった。平均年齢は76.3歳で、町別で平均年齢が一番高いのは万根町(81.2歳)だった。

● 有効回答207票のうち、4分の1の57世帯が独居世帯だった。また、独居世帯を含め高齢者だけの世帯は79世帯(38.2%)だった。

## 2 別居子

別居子の有無と別居子の訪問頻度(平均)

地区	別居子の有無				別居子の訪問頻度(平均)			頻度不明
	有り	無し	無回答	計	週	月	年	
明賀	7	2	4	13	3.0	-	4.8	-
太田	27	3	4	34	1.7	1.8	2.5	-
大坪	34	2	2	38	1.2	1.9	2.9	-
押井	15	6	5	26	3.8	2.0	1.4	2
加塩	28	4	2	34	2.4	1.4	3.3	2
小田	5	1	-	6	1.0	1.0	1.0	-
榊野	20	7	5	32	1.7	1.3	3.5	-
万根	4	1	3	8	5.3	-	-	2
杉本	35	5	9	49	1.5	1.8	3.4	2
東萩平	18	5	7	30	1.7	1.2	3.8	2
総計	193	36	41	270	2.2	1.6	3.1	10

別居子の居住地と訪問頻度(平均)

地区	旭地区内	豊田市内	西三河地域内	愛知県内	県外	無回答	計
週平均	2.8	2.0	2.2	2.3	1.0	1.0	2.2
月平均	2.4	1.5	2.0	1.5	1.0	2.0	1.6
年平均	4.0	3.9	3.8	3.0	1.8	3.0	3.1

● 193名(71.5%)に別居子があり、うち約7割は別居子が月1回以上訪問していた。

● 独居世帯(57世帯)のうち、約半数の31世帯には別居子があり、その多くは月1回以上訪問していた。

● 「会う頻度の高い別居子」が「旭地区内を含めた豊田市内にいる」と回答した者は106名(54.9%)だった。

● 別居子が近くに住んでいる方が訪問頻度が高い傾向にあった。

## 3 人的ネットワーク

親しい人の有無

性別	人数
男性	90
女性	103
無回答・空欄	10
合計	203

親しい人の数(最大7名まで)

地区	親しい人物の数(平均)					性別空欄
	全体	男性	女性	無回答		
明賀	2.9	3.3	2.8	-	2.0	
太田	3.3	3.9	2.8	-	3.0	
大坪	3.5	4.0	3.0	-	-	
押井	2.7	2.8	2.7	3.0	2.0	
加塩	4.0	3.7	4.2	-	-	
小田	3.0	1.0	5.0	-	-	
榊野	4.1	3.5	4.8	-	1.0	
万根	3.0	3.3	1.5	-	4.0	
杉本	3.8	2.9	4.5	-	3.5	
東萩平	3.8	3.7	4.2	-	1.0	
全体	3.6	3.5	3.7	3.0	2.7	

親しい人との関係性

地区	親しい人物との関係性							
	別居子	親族	近隣住民	友人	仕事関係	民生委員	福祉関係	その他
明賀	4	2	8	9	1	0	0	0
太田	8	14	27	23	10	1	1	8
大坪	13	15	33	26	12	1	2	4
押井	10	8	11	16	1	0	3	1
加塩	13	31	35	22	20	0	3	1
小田	0	4	2	3	2	0	0	0
榊野	13	15	27	32	9	1	5	2
万根	4	0	8	8	0	0	1	0
杉本	2	25	49	40	6	2	3	1
東萩平	2	8	17	27	11	1	0	3
全体	69	122	217	206	72	6	18	20

※延べ人数のため、1人の人物に複数の関係性が含まれる可能性がある。

● 親しい人をあげた回答者は270名中203名(75.2%)で、女性の方が若干多かった。親しい人は個人名を記入してもらう形だったため、個人情報の観点等から記入を避けた可能性も考えられる。

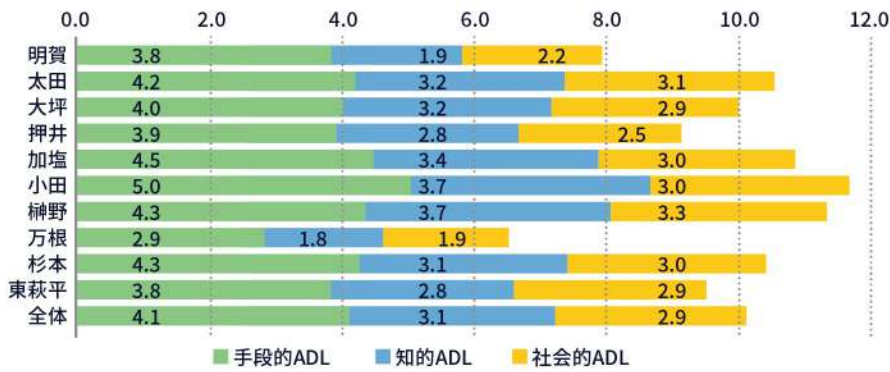
● 親しい人の数は、全体平均3.6名、男性平均3.5名、女性平均3.7名となった。町別では、加塩町・小田町・杉本町・東萩平町で男性よりも女性の方が親しい人の数が多かった。

● 親しい人との関係性は、近隣住民217名、友人206名、親族122名の順に多かった。民生委員は6名と少ないが、コロナ禍で活動を休止していた影響があると思われる。



## 4 健康状態

老研式活動能力指標※の平均得点(比較グラフ)



● 老研式活動能力指標の合計得点(高次ADL)は、13点満点中、全体平均10.1点だった。

※老研式活動能力指数:高齢者の生活機能から健康状態を評価するために開発された指標。手段的自立・知的能動性・社会的役割の3つの指標からなる。

● 町別では万根町がもっとも低く、手段的・知的・社会的のすべてで他地域を下回った。これは、平均年齢の高さが影響している可能性が考えられる。

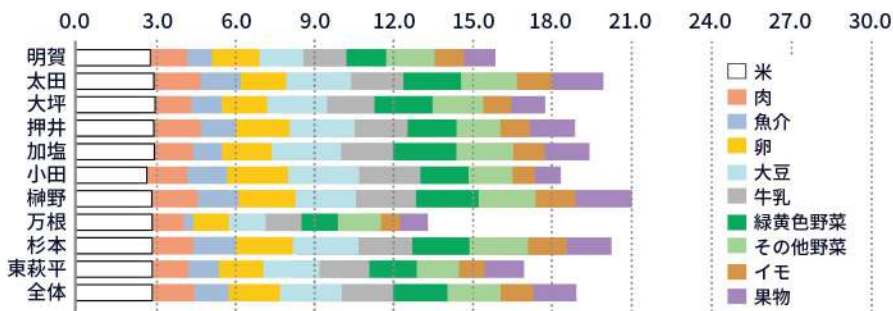
● 食物摂取頻度(10品目)の合計得点は、30点満点中、全体平均18.7点だった。品目別では、米の摂取頻度が平均2.9点と最も高く、次いで大豆が平均2.3点と高い。イモの摂取頻度は平均1.2点と低く、魚介も平均1.3点と低い状況となった。

※食物摂取頻度:品目ごとに3点満点で計算し、品目合計30点満点となる。

● 老研式活動能力指標、食物摂取頻度とも、親しい人の数が多いほど平均的に高くなる傾向がみられた。

※高次ADL得点:老研式活動能力指標の合計得点(13点満点)。

食物摂取頻度※(10品目)の平均得点(比較グラフ)



## 5 親しい人の数と健康状態

親しい人の数と高次ADL得点(13点満点)※の関係

地区	親しい人の数と高次ADL平均得点								高次ADL(再掲)
	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名	
明賀	4.5	10.0	9.0	7.8	13.0	5名	12.0	—	7.9
太田	8.9	9.6	11.5	11.2	11.0	12.3	8.0	12.0	10.5
大坪	10.0	7.3	8.6	11.8	12.7	9.4	11.0	11.0	10.0
押井	8.5	5.0	11.0	10.8	13.0	8.0	—	12.0	9.1
加塩	8.0	9.0	10.2	10.4	12.2	13.0	12.0	12.0	10.8
小田	11.5	10.5	—	13.0	—	—	—	13.0	11.7
榑野	11.7	9.0	12.5	11.4	—	11.8	10.5	12.3	11.3
万根	1.0	7.5	3.0	5.0	—	12.0	—	13.0	6.5
杉本	8.8	11.4	10.5	11.4	7.7	11.0	—	12.6	10.4
東萩平	8.3	7.6	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	12.0	9.5
全体	8.7	8.7	9.9	10.8	11.3	11.2	11.0	12.1	10.1

親しい人の数と食物摂取頻度得点(30点満点)の関係

地区	親しい人の数と食物摂取頻度(30点満点)の平均得点								合計点数(再掲)
	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名	
明賀	14.0	10.5	16.0	16.3	19.0	—	25.0	—	15.8
太田	18.1	17.7	21.0	18.0	19.7	23.5	22.0	23.0	19.7
大坪	17.8	15.0	17.2	16.0	20.3	19.0	22.0	20.0	17.6
押井	16.8	16.7	20.0	18.8	17.0	25.0	—	27.0	18.8
加塩	14.3	19.7	18.0	22.0	19.8	17.0	20.3	20.2	19.1
小田	20.0	17.5	—	20.0	—	—	—	15.0	18.3
榑野	21.2	17.7	18.5	22.0	—	20.8	21.0	23.4	20.9
万根	21.0	9.5	13.0	9.0	—	12.0	—	19.0	13.3
杉本	18.8	20.3	20.3	21.3	16.3	16.5	—	23.2	20.0
東萩平	15.3	15.8	20.5	21.0	19.0	19.0	19.0	14.8	16.3
全体	17.6	16.8	18.7	19.0	19.0	19.7	21.2	21.2	18.7



## 6 世帯構成と健康状態

### 世帯構成と老研式活動能力指標得点

地区	老研式活動能力指標得点(13点満点)								全体
	世帯人員								
	1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名	不明	
明賀	9.0	5.6	11.0	9.0	13.0			5.5	7.9
太田	8.8	11.0	10.8	8.5		12.3		11.3	10.5
大坪	10.6	10.4	10.3	6.5			10.5		10.0
押井	9.6	7.3	8.4	13.0		10.7			9.1
加塩	10.3	10.7	10.8	12.2		10.3			10.8
小田	10.0	12.3	10.0	13.0					11.7
榊野	10.0	12.1	11.5	12.7	11.8	7.5			11.3
万根	2.3	9.0							6.5
杉本	8.9	10.7	10.9	10.4			13.0		10.4
東萩平	8.8	11.0	8.8		13.0	13.0			9.5
全体	9.2	10.4	9.9	10.4	12.2	10.7	11.8	9.3	10.1

- 老研式活動能力指標、食物摂取頻度とも、世帯人員が1名もしくは3名の場合に平均得点が低くなる傾向がみられた。

### 世帯構成と食物摂取頻度得点

地区	食物摂取頻度得点(30点満点)								全体
	世帯人員								
	1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名	不明	
明賀	6.0	11.7	18.0	19.5	19.0			19.0	15.8
太田	18.0	20.6	17.0	19.8		25.0		19.5	19.7
大坪	16.4	18.2	20.0	13.8			20.0		17.6
押井	18.3	17.5	16.2	26.5		24.7			18.8
加塩	17.3	20.4	20.0	19.3		17.7			19.1
小田	16.0	22.0	13.0	15.0					18.3
榊野	17.0	22.1	19.5	21.5	24.2	18.5			20.9
万根	15.7	11.8							13.3
杉本	18.3	20.5	20.7	19.9			25.0		20.0
東萩平	19.2	16.7	14.8		21.0	20.0			16.3
全体	17.4	19.0	17.7	19.5	22.7	21.6	23.3	19.3	18.7

## 総括

- 独居世帯の7割に別居子の定期的なサポートがあると考えられるが、それ以外は別居子がおらず、社会福祉協議会等の連携によるサポート体制の構築が望ましい。
- 親しい人をあげなかった回答者は、女性よりも男性の方が若干多い。その人々は孤立している可能性があり、注意が必要。
- 老研式活動能力指標の合計点数は、20年前の既往研究よりも若干低い値となり、全体的に活動能力指標が低い可能性が示唆された。ただし、既往研究との比較は中山間地域という地域性が考慮できていないため、留意が必要。
- 食物摂取頻度(10品目)の合計得点は、他地域の調査よりも若干低い値となった。中でも「イモ」(腸内環境と関連)、「魚介」(虚血性心疾患と関連)の摂取頻度が低く、意識すべきポイントと考えらえる。
- 老研式活動能力指標得点、食物摂取頻度得点ともに、親しい人の数が多いほど平均的に高くなる傾向にある。これは他地域においても同様の結果が出ており、親しい人が少なく・健康指標が低い回答者には見守りや介入支援が必要になる場合もある。
- 老研式活動能力指標得点、食物摂取頻度得点ともに、世帯人員が1名(独居)もしくは3名(家族同居)の場合に平均得点が低くなる傾向にある。その背景には、独居世帯の食生活への意識の低さや家族同居世帯内での孤立化の影響があると考えられる。親しい人の人数との関連性、家族構成と別居子の有無、別居子の訪問頻度等に配慮した支援を検討する必要がある。



## 貞観杉

「貞観杉」は、平安時代前期(貞観年間859～876年)、杉本神明神社創建時に社頭に植えられたと伝えられます。樹齢1100年、樹高45m、胸高囲11.7m、根回り14.5mは、愛知県下最大であり、1944年に国指定文化財(天然記念物)に指定されました。



**みんなが幸せに暮らす  
未来のしきしまのために**

～未来に向けた構造改革のための提言～

令和5年9月

敷島自治区 未来への構造改革プロジェクト  
(令和5年度豊田市わくわく事業)